

目 次

はしがき

第 I 部 英語表現の押さえどころ —英語を教える人のために—

第 1 章 不思議な英語表現	2
1. 英語に入ったフランス語再考	2
2. 英語における品詞の転換について	8
3. work from home という表現について	12
4. Base camp is as about as high as most of them will go.—反語の as ... as ...	18
5. 綴り字と発音のズレ—言語的内因ではない部分について	23
第 2 章 基本表現の意味解釈再考	32
1. 可算名詞再考	32
2. John is as tall as Bill. の解釈をめぐって	38
3. as tall as における tall の意味	48
4. Thank you very much. が「ありがとう」の意でないとき	53
5. a number of はいつでも「多くの」の意か	57
6. 接頭辞 un- の意味と用法	61
7. 前置詞 of を解きほぐす	66
第 3 章 学習者がこんな質問をしてきたら	74
1. なぜ冠詞は発音が変わるのか	74
2. なぜ houses の複数形語尾は濁るのに、horses の複数語尾は濁らない のか	80

3. 前置詞の to と不定詞の to は同じものか…………… 81
4. なぜ there 構文の絵解きについたてがあるのか…………… 85
5. なぜ A whale is no more a fish than a horse is. という文は, than 以下が肯定文なのに, 「馬は魚でない」と否定文で訳すのか…………… 89
6. 歩いていなくても I stopped to smoke. は「立ち止まってたばこを吸った」と訳すのか…………… 93
7. 映画 Roman Holiday は「ローマの休日」でよいか…………… 96
8. なぜ I promised John a bicycle tomorrow. では tomorrow が使えるのか…………… 97
9. なぜ You must have some of this cake. はていねいな言い方になるのか…………… 102
10. なぜ growth は grow の自動詞用法しか受け継がないのか…………… 104
11. なぜふつうの情報構造でない文は主語・助動詞の倒置が起こるのか…………… 107
12. なぜ「摂氏 0 度」は zero degrees Celsius と単位が複数形になるのか…………… 115
13. なぜ cough, tough の gh は [f] と発音し, thought の gh は発音しないのか…………… 116
14. なぜ double の b は読むのに, doubt の b は読まないのか…………… 119
15. なぜ再帰代名詞に [属格形 + self] と [目的格形 + self] があるのか…………… 120
16. he を「ヒー」と発音してはいけない? …………… 121
17. forty の綴り字について…………… 123

第 II 部 英語学点描

第 4 章 主語の位置に生ずる, 定冠詞を伴わない最上級…………… 128

0. 基礎となる資料…………… 128
1. 従来の説とその限界…………… 129
2. 定冠詞を伴わない, 名詞付きの最上級…………… 131
3. 定冠詞を伴わないことは何を意味するか…………… 132
4. 定冠詞がないことと地位を表すこととの関係…………… 134
5. 定冠詞がないことはインサイダー的視点の現れである…………… 135
6. 事実の提示か判断の提示か…………… 138
7. 結語…………… 141

第5章 Don't call her "she."—外界指示と言語内指示	142
0. 代用表現が豊富な英語	142
1. 不思議な代用表現の用法	143
2. 身近な人を代名詞で言及するのは失礼であるという説明	144
3. 外界指示と言語内指示	145
4. 人を人として扱う用法と人を物として扱う用法	149
5. 問題の解決法	151
第6章 why to do は容認可能である	153
0. 偽りの空白	153
1. WH to VP 構文の意味解釈	154
2. WH to VP と NP to VP のちがい	162
3. WH to VP 構文の機能は〈問題提示〉にある	164
4. コントロールの問題	166
5. 結語	168
第7章 能動態の意味を残す -able 形容詞について	169
0. はじめに	169
1. -able 形容詞の受動態用法	169
2. -able 形容詞の能動態方法	171
3. 三つの問題	174
3.1. なぜ、-able 形容詞はそのほとんどが受動態の意味を含んでいるのか	174
3.2. なぜ、-able 形容詞の中に純粋な能動態の意味で構成されているものがあるのか	176
3.3. なぜ、-able 形容詞は同じ形で能動態と受動態の両方の意味を担うことができるのか	181
4. 適切な訳語が待たれる -able 形容詞の例—結語に代えて	182
第8章 分詞構文の文脈依存性	184
0. はじめに	184
1. 形式上の従属性と内容の従属性	185
1.1. 文末の分詞構文	185

1.2. 文頭に分詞構文	190
2. 具体的な先行文脈に依存していないようにみえる用例	192
3. 文学作品における分詞構文	194
4. 終わりに	200
第9章 形式と解釈の相互関係に関する有標性の原理	201
0. はじめに	201
1. be 動詞文の基本的な解釈	201
2. 叙述文とリスト文の定義	203
2.1. 叙述文の定義	203
2.2. 叙述文の定義の修正	204
2.3. リスト文の定義	205
2.4. 叙述文とリスト文はただ一点で異なる	207
3. be 動詞文の基本形	207
4. 形式と解釈の相互関係に関する有標性の原理	212
5. be 動詞文以外からの例証	213
第 III 部 失語症と認知	
第10章 失語症と認知	
—カッシーラーの病理学論に寄せて—	216
0. はじめに	216
1. カッシーラーの病理学論	221
2. 座標軸における原点の確立	223
3. 関数の平行移動	228
4. 座標軸の親近性（自分の座標軸と他人の座標軸）	233
5. レネバーグの失語症論	236
6. 結語	237
第11章 失文法発話資料の再分析	239
0. はじめに	239
1. 再分析の背景	240

2. 再分析の視点	242
3. 失文法患者の発話の文体について	245
4. オノマトペの多用について	248
5. 資料の再分析	253
参考文献	275
索引	281